

令和2年度事業報告

令和2年4月1日から令和3年3月31日まで

令和2年度は、国内における新型コロナウイルスの感染が急拡大し、それに伴い、社会経済活動が抑制（各種イベントの中止・延期、海外からの入国禁止、緊急事態宣言、不要不急の外出自粛等）される中で始まった。

畜産で最も大きな影響を受けたのは、肉用牛肥育経営で、年明け以降弱含んでいた牛枝肉価格は、外食需要の激減により3月から急落し、4月には前年比約3割安となり、急速に収益性が悪化した。

これに対して、国・県が、機動的に肉用牛肥育経営を安定させるための対策（肉用牛肥育経営安定交付金制度生産者負担金納付猶予措置（国）、肉用牛肥育経営等緊急支援事業（国）、肉用牛肥育経営安定対策緊急支援事業（県）等）を打ち出した。

当協会は、そうした事業の受け皿として、年度をまたぐ慌ただしさの中で、優先的に、新規事業等の実施体制を整備し、遅滞のない事業推進に努めた。その結果、肉用牛肥育経営の継続が図られながら、牛枝肉価格は、年末までには前年同期を上回る水準に回復した。

一方、中小家畜（豚・鶏）については、巣ごもり需要により、豚枝肉卸売価格、鶏肉卸売価格ともに、前年度対比で約一割高となった。

国内の新型コロナ感染は、その後も第二波、第三波、第四波と押し寄せた。そうした中、役員が家族ぐるみの感染防止対策を徹底しながら、事業継続の確保に努めるとともに、当協会事業に関わる方々にも、様々なご協力をいただいた。一部事業については、感染防止対策のため、中止（岩手県畜産共進会）又は縮小（牛群審査）を余儀なくされた。

日米貿易協定発効（令和2年1月1日）に合わせて、令和元年度補正予算として創設された「生産基盤拡大加速化事業（肉用牛）」については、年度をまたいで準備を進めたものの、新型コロナの影響と推察される中央の事情により、実質的な取組が大幅に遅れた。事業量の提示は令和3年2月までずれ込み、農協等における取りまとめ事務にご苦勞をおかけしたが、最終的に647頭に増頭奨励金が交付され、本県肉用牛生産基盤の強化に寄与することができた。

<重点事項>

- 1 将来を担う経営体を対象とした経営診断・経営技術指導の実施
- 2 地域畜産をけん引する収益性の高い経営体の育成推進
- 3 肉用牛肥育経営安定対策の的確な実施
- 4 家畜人工授精用凍結精液等の安定供給及び高度利用の推進
- 5 登録制度を活用した家畜の遺伝的能力の向上
- 6 自衛防疫意識の啓発と地域ぐるみのワクチン接種推進
- 7 高い精度で安定した生乳検査の実施
- 8 第15回全日本ホルスタイン共進会に向けた県出品牛の選抜と出品対策の推進

I 実施事業

1 継続事業1

畜産振興を目的として、経営の改善・生産技術の向上、経営体の育成、家畜改良の推進、家畜衛生の向上及び畜産物の安全確保、調査及び情報提供、家畜生産・家畜改良意欲の増進啓発等に係る事業を実施した。

<経営安定・改善のための診断・助言等に係る事業>

(1) 畜産生産基盤育成強化事業

[県委託：5,298千円]

経営感覚に優れた生産性の高い畜産経営の確立を推進するため、関係機関・団体による経営分析・指導等を行った。

ア 畜産経営体支援指導研究会 1回

イ 畜産経営技術の総合支援指導

(ア) 個別支援指導の実施

① 経営診断に基づく改善指導 10戸

② 経営管理技術指導 36戸

③ 生産技術指導 68戸

④ フォローアップ指導 57戸

(イ) 地域セミナーの開催 5回

ウ 畜産経営情報の提供

ホームページに情報掲載(随時)

(2) 畜産特別資金等推進指導事業

[中畜補助：4,700千円]

畜産特別資金借入者の経営を改善するため、関係機関・団体で組織する「畜産特別資金岩手県支援推進協議会」による農家指導等を行った。

ア 融資機関への指導 22回(延べ)

イ 経営改善計画作成、見直し及び達成に係る指導

(ア) 見直し指導 2回、8戸

(イ) 達成指導 50回、44戸

ウ 借入者の負債残高等経営改善進捗状況調査

8融資機関、73戸(前年度対比6戸減)

エ 借入者の経営改善計画の定期的実績点検及び調査

64戸(前年度対比9戸増)

(3) 地域畜産支援指導等体制強化事業

[地全協補助：15,504千円]

地域畜産の安定及び高度化を図るため、国及び県の主要な畜産振興施策を補う各種事業を実施した。

ア 畜産経営の支援体制強化事業

- ・ 経営診断指導 171 戸、地域セミナー5 回
- ・ 乳質改善指導 319 戸（ミルキングシステム診断に併せて実施）
- ・ 乳用牛群検定推進に係る成績取りまとめ等 14 検定組合
- ・ 研修会及び会議等への参加及び情報提供等 4 回
- ・ いわたの酪肉繁殖性向上研修 1 回

イ 地域畜産の活性化に資する事業

- ・ 県域及び地域の家畜共進会支援 9 地域
- ・ 畜産関係情報の提供及び普及啓発 要覧作成、ホームページ更新（随時）

ウ 馬事普及啓発の推進体制強化事業

- ・ 競馬場（盛岡）における畜産フェア 畜産物加工品配布 400 人分
- ・ 競馬冠レース優勝者への副賞（いわて牛）授与 2 回

（4）畜産・酪農生産力強化対策事業（家畜生産性向上対策）

[中畜請負：324 千円、中畜委託：210 千円]

家畜遺伝能力の最大限の発揮による生産性向上を図るため、生産性に係るデータの収集・分析と技術指導を実施した。

- ・ 酪農経営 4 戸
- ・ 肉用牛経営（繁殖）2 戸

（5）ミルキングシステム診断事業

[独自：5,887 千円]

酪農経営における収益性向上のため、ミルキングシステム診断及び搾乳指導等を実施した。

- ・ ミルキングシステム診断 316 基（前年度対比 6 基減）
- ・ バルククーラー点検 308 基（前年度対比 3 基減）

<担い手の強化・育成等に係る事業>

（6）肉用牛経営安定対策補完事業（地域における肉用牛生産基盤強化等対策）

[機構補助：7,369 千円、預り補助金 57,247 千円]

肉用牛の安定生産を確保するため、国の経営安定対策を補完する取組を支援した。

ア 肉用牛生産基盤強化対策

- ① 中核的担い手育成増頭推進
繁殖雌牛増頭への奨励金 6 農協、110 頭（前年度対比 48.0%）
- ② 遺伝的多様性に配慮した改良基礎確保
繁殖雌牛導入等への奨励金 4 農協、15 頭
- ③ 優良繁殖雌牛導入支援
優良雌牛導入等への奨励金 6 農協、56 頭（前年度対比 51.9%）
- ④ 肉用牛ヘルパー推進
肉用牛ヘルパー利用の推進 5 組合

⑤ 肉用牛振興推進指導

①から④の円滑実施のための指導等

イ 地域の特色のある肉用牛振興対策

① 地方特定品種の振興

- ・ 特徴ある牛肉生産等 1 農協、10 集団
- ・ 計画出荷対策 1 農協、304 頭

② 山振地域における肉用牛振興

優良子牛適正出荷推進 1 農協、2,166 頭

③ 地域の特色ある肉用牛生産推進指導

①から②の円滑実施のための指導等

(7) 生産基盤拡大加速化事業 (肉用牛)

[全肉振委託：4,897 千円]

優良雌牛の増頭による肉用牛生産基盤の拡大を図るため、本県の窓口団体としての事務を行った。

ア 対象 20 取組主体 (264 戸)

イ 奨励金交付頭数及び金額 647 頭、151,849 千円

ウ 推進会議 1 回

(8) 肥育牛経営等緊急支援特別対策事業 (肥育生産支援)

[中畜委託：4,740 千円、預り補助金：311,920 千円]

新型コロナの影響により、収益性が悪化した肥育経営を支援するため、経営体質の強化に資する取組等を行う肥育経営体に対し、奨励金を交付した。

ア 対象 309 戸 (牛マルキン対象戸数 280 戸、牛マルキン対象外戸数 29 戸)

イ 奨励金交付頭数及び金額 15,596 頭、311,920 千円

ウ 推進会議 2 回

(9) 肉用牛肥育経営安定対策緊急支援事業

[県補助：261 千円、預り補助金：84,460 千円]

生産者積立金の払底による肉用牛肥育経営安定交付金の減額分について、その一部を補助した。

ア 対象品種

肉用牛肥育経営安定交付金制度における生産者積立金が払底した品種

イ 対象頭数 肉専用種 5,743 頭

ウ 補助額 84,460 千円

<地域が連携した畜産振興等に係る事業>

(10) 畜産クラスター機械導入事業 (窓口団体事務)

[中畜委託：3,824 千円]

畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業のうち機械導入事業について、本県の

窓口団体としての事務を行った。

ア 対象 9か所の畜産クラスター協議会

イ 要望額 195,768千円（機械83台）

ウ 配分額 195,768千円（機械83台）

金額は補助金ベース（機械価格の1/2）

※配分率 100%

[主な導入機械]

機械名	価格	機械名	価格
フォールジハーベスター	27,500千円	堆肥運搬車（特装）	5,150千円
搾乳ロボット	18,700千円	カッティングロールバレー	3,625千円
トラクター	6,500千円	回転フォーク	3,609千円
ホイールローダー	5,876千円	スキッドステアローダ	3,000千円
TMRミキサー（牽引式）	5,355千円	ラッピングマシン	2,220千円

エ 機械導入状況調査（平成29年度及び平成30年度導入分）

5協議会 5台

(11) 畜産経営体生産性向上対策事業（ICT化等機械装置等導入事業）

[中畜委託：550千円]

肉用牛経営及び酪農経営における労働負担軽減・省力化、飼養管理技術の高度化等に資する機械装置の導入を支援した。

ア 普及対象 83か所（応援会議、クラスター協議会、JA、市町村等）

イ 取組主体及び実績 くじ楽酪応援会議（1戸）、導入機械1台（自動給餌機）

ウ 補助額 3,200千円

(12) 酪農労働省力化推進施設等緊急整備対策事業（労働負担軽減対策）

[中畜委託：554千円]

酪農経営における労働負担軽減・省力化、飼養管理技術の高度化等を推進するため、機械装置の導入（リース）及び導入される機械装置と一体的な施設の整備について、普及啓発を行った。

普及対象 83か所（応援会議、クラスター協議会、JA、市町村等）

(13) 畜産クラスター全国推進事業（改善効果調査）

[中畜請負：150千円]

畜産クラスターの効果を検証するため、事業取組経営体を対象として、経営内容に係る調査を行った。

調査戸数 1戸

(14) 畜産クラスター全国推進事業（全国実態調査）

[中畜請負：800千円]

畜産クラスターの取組を推進するため、先進的経営体等を対象として、経営内容に係る調査を行った。

調査戸数 10戸

<家畜改良の推進等に係る事業>

(15) 酪農経営支援総合対策事業（乳用牛改良増殖推進事業：飼養管理技術の向上対策）

[改良事業団委託：58 千円]

一般社団法人家畜改良事業団と牛群検定組合との間で行われる事務手続きに係る窓口業務を行った。

3 検定組合

(16) 乳用牛群検定情報分析センター機能向上事業

[県委託：510 千円]

乳用牛群検定で得られたデータを有効活用するため、情報を収集・分析し、検定組合への提供等を行った。

巡回指導 14 検定組合

(17) 和牛遺伝資源流出防止対策緊急支援事業

[全肉振補助：預り補助金：3,250 千円]

和牛精液等の不正流通を防止するため、和牛精液等製造事業者が精液等の容器に必要な情報を印字する機器の導入に対し、支援を行った。

ア 事業対象者 1 団体

イ 導入機械及び補助額 ストロー印字機等一式、3,250 千円

(18) 馬の改良増殖推進事業

[地全協補助：1,798 千円]

農用馬の改良及び生産振興を図るため、奨励金の交付等を行った。

ア 優良種雄馬繁殖奨励

- ・ 種付奨励金 種雄馬 6 頭
- ・ 種付頭数 48 頭
- ・ 交付額 540 千円

イ 子馬生産奨励

- ・ 生産奨励金 種雌馬 29 頭
- ・ 交付額 1,254 千円

<家畜衛生の普及推進等に係る事業>

(19) 家畜防疫互助基金支援事業

[機構補助：3,016 千円]

口蹄疫、豚熱（CSF）等発生時の経済的損失を、生産者が互助補償する体制整備のため、互助基金制度の周知と加入促進を行った。

ア 推進会議 1 回

イ 加入実績（括弧内は加入率）

- ・ 乳用牛 535 戸（64.1%）、33,609 頭（80.8%）

- ・ 肉用牛 2,720 戸 (67.0%)、70,122 頭 (77.0%)
- ・ 豚 54 戸 (51.4%)、340,659 頭 (84.7%)

(20) 家畜防疫・衛生指導対策事業

[中畜補助：1,828 千円]

地域における自衛防疫活動を推進するとともに、農場HACCP認証の取得に向けた取組を支援した。

- ア 地域自衛防疫推進 推進会議 2回、防疫演習 2回
- イ 地域疾病対策 慢性感染症対策 牛白血病 1戸
- ウ 地域農場HACCP認証支援 構築指導 1戸

(21) 馬飼養衛生管理特別対策事業

[中畜補助：610 千円]

馬の飼養環境の脆弱化による飼養衛生管理技術レベルの低下を防ぐため、衛生管理に係る講習会の開催等を行った。

- ア 委員会等の開催 委員会 1回、講習会 2回
- イ 実態調査 78戸

(22) 育成馬等予防接種推進事業

[中畜補助：190 千円]

馬伝染性疾病の発生を防止するため、計画的な予防接種（日本脳炎、破傷風及び馬インフルエンザ）を推進した。

日本脳炎 26頭、破傷風混合3種 30頭、馬インフルエンザ 43頭

(23) 馬伝染性疾病防疫推進対策事業

[中畜補助：634 千円]

馬インフルエンザ防疫対策として、農用馬等へのワクチン接種を推進した。

馬インフルエンザ 94頭

(24) 牛疾病検査円滑化推進対策事業

[農水省補助：1,389 千円、預り補助金 10,597 千円]

死亡牛の適正な処理とBSE検査の円滑な実施を推進するため、処理に要する費用への補助を行った。

96か月齢以上の死亡牛及び起立不能等 1,267頭

<技術研鑽・生産意欲増進等に係る事業>

(25) 家畜共進会開催事業

[県補助：23 千円]

新型コロナウイルス感染症の感染リスクを回避するため、中止とした。

開催に係る検討会 1回、次年度開催に向けた協議 1回

<畜産に係る調査、情報収集及び情報提供等に係る事業>

(26) 「岩手の畜産」発行事業

[独自：1,409千円]

畜産農家及び畜産関係機関・団体に、畜産経営に関する有用な情報を提供するため、会報「岩手の畜産」を発行した。

年6回（奇数月）発行 1回当たり発行部数 1,340部

(27) 畜産近代化リース協会貸付事業指導等事業

[畜産近代化リース協会委託：1,423千円]

畜産近代化リース協会貸付事業により導入された施設・機械の適正利用を確保するため、物件確認と管理状況調査等を行った。

調査物件数 103件、リース事業周知 14回

(28) 地域連携支援事業

[公庫委託：43千円]

畜産経営の改善に資するため、会議等において、公庫資金に係る情報を提供し、活用を推進した。

(29) 畜産技術指導促進事業

[独自：46千円]

研修会、会議等において、畜産技術情報の提供等を行った。

会議等 5回

(30) 図書支援事業

[独自：408千円]

畜産に関する知識・技術の普及向上を図るため、公益社団法人中央畜産会が発行する月刊誌「畜産コンサルタント」等の書籍の斡旋配布を行った。

畜産コンサルタント 348部、一般書籍 29部

2 継続事業2

肉用牛肥育経営安定対策事業

(1) 肉用牛肥育経営安定交付金制度事務管理運営事業

[預り補助金：1,417,088千円、生産者負担金：305,473千円、
機構委託費：12,929千円、手数料：13,304千円]

肉用牛肥育経営の安定を図るため、月ごとに肥育牛1頭当たりの標準的販売価格が標準的生産費を下回った場合、差額の9割を補填金として交付するなどの事務を行った。

ア 肥育牛安定基金造成

品種区分	生産者負担金
肉専用種	225,455,909 円
交雑種	70,755,913 円
乳用種	8,985,438 円
日本短角種	275,322 円
計	305,472,582 円

※令和2年4月から実施された負担金納付猶予（全品種）及び同月販売分からの基金払底（肉専用種）により、基金から交付される補填金額と相殺された生産者負担金納付額を含む。

イ 補填金交付

品種区分	対象頭数	交付額※
肉専用種	7,086 頭	1,014,388,541 円
交雑種	7,284 頭	811,610,997 円
乳用種	1,222 頭	54,284,545 円
日本短角種	309 頭	9,254,437 円
計	15,901 頭	1,889,538,520 円

※交付額は、農畜産業振興機構からの預り金 1,417,088 千円を含む。

[補填金発動状況（金額は1頭当たり交付金額）]

（単位：円）

月	肉専用種	交雑種	乳用種	日本短角種	月	肉専用種	交雑種	乳用種	日本短角種
4	253,565.1	148,130.1	52,145.1	—	10	41,286.6	131,468.4	37,969.2	—
5	225,279.9	146,220.3	46,925.1	50,821.2	11	—	79,365.6	38,144.7	—
6	186,710.4	190,413.9	48,078.9	56,705.4	12	—	29,124.9	38,791.8	—
7	141,668.1	180,387.9	39,031.2	12,838.5	1	—	22,759.2	43,453.8	45,324.0
8	167,785.2	153,076.5	51,616.8	—	2	—	82,541.7	48,483.9	34,400.7
9	135,186.3	163,894.5	39,206.7	7,801.2	3	—	26,658.9	54,922.5	67,380.3

ウ 事業推進

担当者会議開催 1回、事務委託費の交付

エ 事務再委託先（10団体）

全国農業協同組合連合会岩手県本部、一般社団法人岩手県配合飼料価格安定基金協会、新岩手農業協同組合、岩手中央農業協同組合、花巻農業協同組合、岩手ふるさと農業協同組合、岩手江刺農業協同組合、いわて平泉農業協同組合、大船渡市農業協同組合、岩手花平農業協同組合

（2）和牛肥育経営安定特別対策事業

[県補助：3,645千円]

和牛肥育経営の安定等を図るため、肉用牛肥育経営安定交付金制度における生産者積立金の一部を補助した。

- ア 対象品種 肉専用種（日本短角種を除く）
- イ 対象頭数 14 頭
- ウ 補助額 5 千円

3 継続事業3

家畜自衛防疫事業

[農水省補助：7,407 千円、独自：203,119 千円]

(1) 家畜生産農場衛生対策事業

[農水省補助：7,407 千円]

家畜生産農場における家畜伝染病等の清浄化及びまん延防止のため、同居牛のとう汰や組織的な予防接種等を推進した。

※ 括弧内は前年度対比

- ア ヨーネ病防疫推進
 - 自主とう汰奨励金 6 戸 (75.0%) 9 頭 (20.9%)
- イ 伝染病の発生・流行防止対策
 - アカバネ病予防接種 42,253 頭 (94.9%)
- ウ 牛伝染性リンパ腫対策
 - 清浄化推進農場抗体検査 15 戸 172 頭 (108.9%)
- エ 牛ウイルス性下痢対策
 - ・ 検査 1 戸、75 頭
 - ・ 自主とう汰奨励金 3 戸 4 頭 (36.4%)
 - ・ ワクチン接種 2 戸 135 頭 (30.9%)

(2) 家畜自衛防疫推進・支援事業

[独自：203,119 千円]

ア 予防接種推進事業

家畜伝染性疾病の発生を予防するため、地域ぐるみのワクチン接種を推進した。

ワクチンの種類	頭数
牛5種混合（生）	20,597 頭 (207.7%)
牛5種混合（不活化）	4,525 頭 (79.8%)
牛6種混合（生・不活化）	8,984 頭 (125.0%)
牛6種混合（生）	3,628 頭 (92.3%)
牛ヘモフィルス	19,263 頭 (244.2%)
豚丹毒（生）	38,950 頭 (55.0%)
豚丹毒（不活化）	44,230 頭 (96.3%)

※ 括弧内は前年度対比

イ 家畜伝染性疾病緊急防疫対策事業

家畜伝染性疾病の発生による被害を最小限とするため、初期の迅速な防疫活動に要する経費に補助を行った。

対象疾病	件数	補助金額
牛ヨーネ病	13件 (26.5%)	2,000千円 (77.6%)
牛ウイルス性下痢	3件 (25.0%)	526千円 (21.3%)
牛サルモネラ症	8件 (400.0%)	3,683千円 (306.7%)
合計	24件	6,209千円

※ 括弧内は前年度対比

II その他事業

1 その他事業1

家畜人工授精用精液流通調整事業

[独自：88,464千円]

本県の肉用牛及び乳用牛の改良増殖を推進するため、サブセンターを通じて、家畜人工授精用凍結精液等の供給を行った。

(1) 凍結精液等の供給

※ 括弧内は前年度対比

ア 凍結精液 100,926本 (97.3%)

内訳：肉用牛 63,963本 (95.0%)、乳用牛 36,963本 (101.3%)

イ 受精卵 416個 (68.0%)

内訳：肉用牛 388個 (70.2%)、乳用牛 28個 (47.5%)

ウ 液体窒素 52,681kg (97.1%)

(2) 経営効果の高い精液の利用推進

家畜人工授精担当者を対象に事業の円滑かつ適正な実施を確保するとともに、家畜改良及び増殖を推進する目的として、会議を開催した。

事業推進会議 1回

(3) 供給精液の受胎状況調査

授精技術の検証及び受胎率の向上等を目的として、供給精液の受胎状況調査を行った。

2 その他事業2

家畜登録事業

[独自：44,482千円]

本県で飼養される乳用牛及び豚の改良を促進するため、家畜登録事業の活用を推進した。

家畜登録等の件数

※ 括弧内は前年度対比

ア 乳用牛 8,552件 (87.8%)

内訳：血統登録 5,100件、牛群審査 813件、牛群検定成績証明 808件、
移動・その他 1,831件

イ 豚 5,210件 (158.7%)

内訳：種豚登録 1,317件、子豚登記 3,031件、移動その他 856件、
農場認定 6件

3 その他事業3

生乳検査事業

[独自：114,756千円]

東北地域の農業協同組合等からの委託又は依頼を受けて、生乳取引等に係る生乳検査を実施した。

(1) 検査実績

※ 括弧内は前年度対比

ア 生乳取引関係 510,430,462kg (99.5%)

イ 牛群検定関係 510,112件 (99.4%)

ウ 依頼試料乳

(ア) 成分及び体細胞数検査 28,483件 (102.9%)

(イ) 細菌数検査 17,908件 (114.3%)

(2) 検査項目

ア 成分

脂肪率、蛋白質率、乳糖率、無脂乳固形分率、全固形分率、乳中尿素態窒素

イ 体細胞数

ウ 細菌数

4 その他事業4

(1) 研修事業

関係機関・団体が行う研修会等への職員派遣を通じて、最新の技術・知識の修得と協会における業務遂行能力の向上を図った。

ア 職員技術研修事業

[独自：1千円]

新型コロナウイルス感染症の影響により、研修会等への派遣を中止

イ 北海道・東北ブロック畜産協会職員研修事業

リモートによる開催（山形県） 参加者数 40名

(2) 畜産理解促進事業

競馬場等、市民が集う場所・催事において、畜産物の配布等を行い、畜産への理解を促進し、併せて、地方競馬の活性化を支援した。

ア 岩手競馬支援特別対策事業

[独自：59 千円]

冠レースでの会長賞授与
第 19 回寒菊賞（12 月・水沢）

イ 畜産関係団体調整機能強化事業

[中畜委託：1,600 千円]

- (ア) 冠レースでの会長賞授与
第 20 回ハーベストカップ（10 月・盛岡）
- (イ) 畜産フェアにおける県産畜産物加工品配布
400 個配布（10 月・盛岡）
- (ウ) 畜産経営相談窓口機能の強化及び相談対応
中央打合せ会及び管理責任者等研修会への参加